

原爆人生

84の韓国人は泣いている

(新西日報 1968年8月6日付)

知の体と弁償せよ。反響のな絶叫
の中で 23年前広島悲劇が今日の韓国に
残っている。1945年8月6日午前8時15分日本の広
島上空に投下された核キノコ雲が厚く数
万人の人命の中には5万人のかわいそうな被害
者かまじっていた。2次大戦の最中に強制徴
用により日本に引きはらわれていて広島と長崎で原子

弾爆撃をうけた 5万名の韓国人被害者のうち

^{8千名は} ~~骨身~~ けがらぬ苦痛と 極めて甚しい貧困

の中で救援の手を待っている。

8.15終戦ととも 半のけがらぬ 傷だらけ
の体を繃帯でまいて 故郷に帰ってきた被爆^爆

者は約1万名。周囲の惨状に無気心の串で

多くの者が ~~死に~~^亡、生き残ったのは ~~約~~ 8千名ほ

かりである。

心に骨の髄まで沁み 恐い原子病は子供
達にも畸形や低能児を生む ぬぐいきれない永

遠の悲劇をねらひ与えた。

韓国原爆被害者救護協会の推算より韓国

にいる原爆の直接的な被害者は84名だが、彼

らが結婚して生れた2世の原子病患者は3万名を

この数といわれる。

これらの約半数が全身或は部分的火傷から

脱骨、手足、精神障害などの診断や治

療方法に漠然として放射能汚染患者として

知られており、23年を経たいまだ正確な病

名や汚染度も定めておらず、また死にかけている。

23年という長い年月を政府の救護は受けていない。

日本からの道義的補償が悲慘な生活を営

に「また彼らは 天刑の人由、原爆暴人生た」と自嘲

まじりの 2週間を語る。

20年間に ~~あつ~~ 政府と関係機関に 救護を

要請してきたが、まだ はつかりた 救護対策を

受けられずにいます、癩病患者や極貧者の ~~救~~ 過

すら 受けられなかった 彼らは、自ら補償権を求

めため 67年7月10日 社団法人の 認可を得て 救

護協会を設立した。ところが 当初の 態度は引いて

冷淡と無関心のやうに 認可の ときの 約束を履行してく

ない 実情である。応募患者の場合、全国の 全国病院に

無料診療 指示した 保健部の 責任は 放棄

が、いまだ患者らが治療を受けられ病院に
いざこざ、該当病院の態度は違ってくる。

“原爆被害者に対する 特別治療規定がやい”。

無料治療を受けたら他の患者らと同じ 要救
護対象者証明を持て来い”。それで保健部が各市

道に命じた行政指示が無駄になった。

当初、^がこれに対する当局の無誠意は、日韓会談

の対日請求権資金の論議に於いて、これらの被爆

者に対する^{補償}~~保障~~問題が、全然論議されなかったこと

からみてもわかる。

殊に、去る4月、無料治療のため 未韓すると

6
いつか 広島放射能医学研究所長志水靖博士の

提議を国家の体面を保つため拒絶したことは、

23年間に はじめて 人道的にこの 医療の恩恵を

受けとれるのだと 胸をおこらせた被爆者らに

はよい 大きな 失望感を与えたわけ"ある。

これから 日本に強制的に引かせる

いつか 被害者~~ら~~にあつた日本政府の 無誠意も

よく 分かる。

昨年 11月4日 駐韓日本大使館の前で 被爆

者らが行った抗議デモの時 "善処する"と

いつか 約束は9月が過ぎた 今更"いつか"履行される

“本国政府と被爆者の無料診断と生活救護
 対策について協議しよう。”との約束は、もちろん日本
 に行つて自費で治療できる経済的余裕のある被爆
 者や2名に対し渡日治療を要せざる」といつた
 約束を之が裏切られてゐる。

また、李鍾郁氏の場合、自費で広島
 原爆病院までたずねていつたが、原爆牛帖の
 所持者限り無料治療が可能だとの治療規
 定のため、治療を拒絶された。

日本人被爆者の場合、1957年に制定された
 原爆医療法に基き、23万人に原爆被爆者健康

8

制度と交付し、無料診療を実施しており、また9

月からは医療法と生活救済のための援護法を

一つに統合し、原爆被害者特別法が実施される。

しかし日本に残っている韓国人的に偽装被害者

者のうちこの原爆被害者交付法対象者は約2千2百名。

年齢がやや低く、就職とか結婚のとき

支障もたらすことがあり、突然調査対象から

除外される者も少なくない。このこととみるのか、^{どう}せ

で

被害者は一様に韓国政府が自主的に

救済対策をとり、今後がなければ、韓国被害者

9

これは原爆犠牲者がもらえよう日本政府と交渉に
くわしか、これは日本医療陣の韓国診療を受け入
れにくることを要求している。

毎年 7月20日から8月20日まで1か月間を原爆週間
に決め、各種の記念行事を^{くり}ひろげている日本で。
今年も、韓国の被爆者を助けようとの気持ちが
おこたおこた、朝日・毎日新聞が日本言論界からも
特派員を派遣して韓国被害者の実態を特集記事
に取り上げると、救護運動が大きく展開されている
だけ、^{だけ}日本政府との交渉が意の持たない場合、
日本国民の良心に直接訴えることもできるのでは

たのかというのである。

事実、去る1月日本・広島女学院の高校生徒会(代表日向順子)が救護協会より86丁の小切手と衣

類27枚を送った^の紙も筆頭に、横浜大学では去

る4月韓国^の旅行から帰来、教養学部の女学生を

(岡口日出美・加藤優子・鈴木紀子)中心とする

ボリッターニ一寄附運動が行われており、神戸にある

韓国

駐領事館に、お礼状と募金の中には青山克行

(大阪市東淀川区塚本町5丁目220)という^{名義}(5名)の

貯金箱12個がばいりていた。

お、田中テル(東京・新宿区戸山1-1-1)という

65才の老人は、朝日新聞の記事を讀み、²「日本人であ

ることか」はすかし¹と言いつながら、²「~~人~~が¹月²おう」³第

金運動をくりひろげ⁴ることを讀者便⁵り⁶と呼びかけ⁷る。

しかしこれらの苦しみに対して知らぬ列をこいて

羞恥心⁸は日本人だけのものではな⁹い。直接加害者¹⁰で

ないといつて日本統治時代の七霊のせき¹¹これらの

悲惨な様子をこれ以上放置¹²できようか。

「23年間の闘病生活で家産を全部費し、生

活に困っているのが韓国被爆者の現実¹³にある。生

活救済対策¹⁴の観点¹⁵で無料診療¹⁶とが至急を要¹⁷す。

恒久対策として医療施設¹⁸と再生院¹⁹と備²⁰大²¹総合²²に

ターが²建たなければならぬ。事物をたゞる費用は

「1枚 1袋」運搬で日本側が受け持つと

にし、各種施設も米國側から援助をうけるこ

とがでるとおもふ。韓国側から敷地だけ用意する。』

韓國人に原爆被害者がいるという事は知らな

「者が」大部分であり、知っているひとの頭の中からも

23年の長い年月の間にたゞたゞ記憶からうあれひき

りある忘却地帯の人たち。一。

責任を負う者も、対策をたゞる機関もない

これらの絶叫は、今後どれほどながく、痛むてくれ

ると一人もたゞく。由に^い「これからやがてないの」
~~う~~たつうか。